

## 「八女福島の燈籠人形」公演（国指定重要無形民俗文化財）

- 1 開催日：令和4年9月23日（金・祝）～25日（日）  
※口開け公演 9月22日（木）20時00分
- 2 公演時間：①13時30分  
②15時  
③16時30分  
④19時  
⑤20時30分（※1回の公演時間 約30分）

※新型コロナウイルス感染症の状況により、公演回数を変更する場合がございます。

- 3 芸 題：「春景色筑紫鴻名島詣」  
（はるげしきつくしがたなじまもうで）

### 《解説》

弁財天を厚く信仰する大名一行が従者を引きつれ、筑前・名島神社に詣でました。筑紫の湫は、やわらかな春風が差し込み、帆をあげた小舟はのどかに行き交い、その帆影は春の波間に漂っています。筑紫の国は春たけなわです。門前の茶店で盃を傾けていた大名一行は、春の情景に酔いしれ思わず盃が進み、いつのまにかまどろむのでした…。(夢の中…)

衣をまとった舞姫姿の弁財天が側近である十五童子のひとり金財童子を連れ現れます。愛宕の宮、筥崎八幡、あるいは千代松原…。最後に名島の社に舞い降りて周囲に桜吹雪が舞い散るなか、弁財天と金財童子は、心ゆくまで社前で舞い遊びました。

- 4 開催場所：八女市本町 福島八幡宮境内
- 5 観 覧 料：無料
- 6 交通アクセス：八女ICから車で約10分
- 7 連絡先：八女市教育委員会教育部文化振興課 ☎0943-23-1982
- 8 概 要

「八女福島の燈籠人形」は、福島八幡宮「放生会」の奉納行事として、秋分の日付近の3日間で上演されるからくり人形芝居です。当初、山鹿市・大宮神社から燈籠を譲り受け、江戸時代半ばに福島町民が独自の工夫をこらし人形の燈籠を奉納したことが始まりといわれます。当時、大阪方面で隆盛を誇った人形浄瑠璃の技術を採用し、現在の形態になったといわれています。

上演の舞台となる屋台やたいは、3層2階建て組立式で、お囃子に合わせて華麗なからくり人形芝居が舞い踊ります。とりわけ人形の橋渡しや衣裳の早変わりなどが見どころです。

